◆東方官衙南地区の調査―第99-2次

はじめに

この調査は、個人住宅改築に伴う事前調査として、橿原市高殿町で実施した。過去における周辺の調査では、藤原宮に先行する複数の時期の建物群（第78－1次）、中世の池状遺構（第75－9次）、近世の井戸や南北溝（第81－2次）などを確認している。

調査区の層序は、上から近世以降の盛土、耕土、藤原宮期のベースである硬質の暗褐色砂質土（土師器・須恵器片を含む）、黄灰色細砂の無遺物層の順となり、今回の遺構は、すべて暗褐色砂質土の上面で検出した。

検出遺構と出土遺物

藤原宮期ないしそれに先行する７世紀の柱穴１基のほか、中世の溝、近世以後の土坑などを検出した。

柱穴は、東壁沿いで確認したもので、掘形の一辺1.0m、検出面からの深さ0.75m。柱は抜き取られている。建物を構成する柱穴とみられるが、建物の規模や構造は不明。ただ調査区との関係から見て、西にはのびない。柱掘形から土師器と須恵器の甕、抜取穴から土師器杯Ｈ、甕などの破片が出土した。

中世の溝は、南北方向の溝と東西方向の溝の接続部分を確認した。幅1.4m以上、深さ0.4～0.5mで、埋土は上層・下層に分けられる。瓦器椀、土師器小皿、瓦質土器甕などが出土。中世の屋敷を方形に囲む溝の西南のコーナー部分となる可能性がある。　（小澤　毅）

図13　第99－2次調査区全景　北から

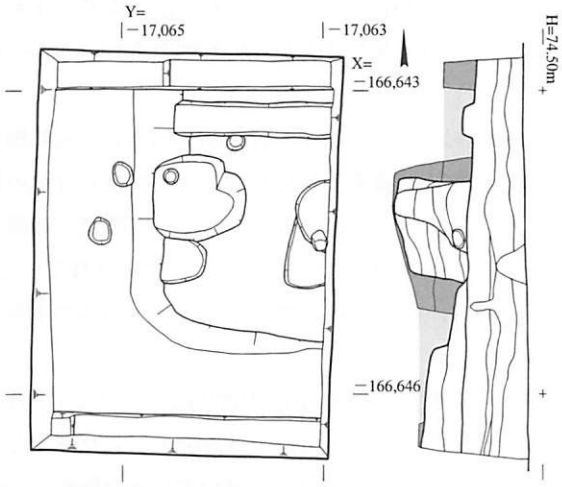

図14　第99－2次調査遺構図　1：75

表４　1999年度　現場班編成　※総担当者

春	夏	秋	冬
松村　恵司（考古第２） ※花谷　　浩（考古第１） 長尾　　充（遺構） 伊藤敬太郎 播摩　尚子（研修）	巽　淳一郎（遺構） ※寺崎　保広（史料） 小澤　　毅（史料） 村上　　隆（考古第２） 渡邉　淳子 加藤　貴之（研修）	毛利光俊彦（史料） 西口　壽生（考古第２） ※小野　健吉（遺構） 鈴木　恵介	安田龍太郎（考古第１） 深澤　芳樹（考古第１） ※小池　伸彦（考古第２） 播摩　尚子 加藤　貴之
調査期間 99.3.23～99.9.14	99.7.1～99.11.11	99.9.17～99.12.27	00.1.7～00.4.13
総括：部長　黒崎　直			写真担当：井上　直夫／保存科学：村上　隆